

報告事項ク

県内文化財建造物の国新規登録について

県内文化財建造物の国新規登録について、別紙のとおり報告します。

平成21年12月18日

鳥取県教育委員会教育長 中永 廣樹

県内文化財建造物の国新規登録について

文 化 財 課

平成21年12月11日（金）に国の文化審議会（会長 西原鈴子）において、下記の文化財を国登録有形文化財に登録する旨の答申が行われました。

記

新規登録が答申された文化財建造物

名 称	所在の場所	特 徴 等	建設年代
五臓圓ビル	鳥取市二階町	<p>昭和6年に建てられた五臓圓ビルは、智頭街道と二階町通り（通称）の交差点に位置し、市内に現存する最古の鉄筋コンクリート造建築である。昭和4年に着工した旧県立図書館に影響され、市内で4番目の鉄筋コンクリート造建築として建てられた。施工は旧県立図書館と同じ大阪の<sup>あたら</sup>新工務所であるが、設計者は不詳である。</p> <p>当建築は3階建てで、地下室は倉庫、1、2階は店舗及び住居とする。3階は従業員宿舎として設計されたが、竣工後約半年で増築し、喫茶店およびレストランとして、営業を開始した。昭和18年の鳥取大震災では建物に影響を受けなかったが、昭和27年の鳥取大火では内部を全焼した。その後、補強を行い、2、3階の用途を変えて利用していたが、近年は利用されていなかった。</p> <p>建物の北角を1/4円弧とし、外壁の仕上げには当時流行したスクラッチタイルを張る。当初は1階と屋上に水平の蛇腹を施していたが、近年、劣化に伴い急遽外装の修理を行った際に、上部の蛇腹は失われた。</p> <p>当建築は、市内現存最古の鉄筋コンクリート造建築であるだけでなく、鳥取大火で焼け落ちた町に残る五臓圓ビルの姿は市民の記憶に深く残っており、国土の歴史的景観に寄与しているとして、評価された。</p>	昭和6年建築 /昭和中期・ 昭和55年・ 平成9年改修

【参考1：登録が答申された建造物の写真】



外 観



2 階内部



階段室

【参考2：鳥取県の国登録文化財、国・県指定文化財の件数（今回の登録含む）】

国登録文化財	国指定文化財	県指定文化財
( 1 4 1 )	( 1 6 )	( 1 8 )
1 4 2	1 1 5	2 3 2
うち鳥取市 ( 1 9 )	( 4 )	( 3 )
1 9	2 8	9 3

( ) 内は建造物の数